

みのり子供園の沿革

設立者

大正九年の四月、余は今宮の細民部落を視察せ

の法は晝間或る工場に通ひ働き居る留守中に他の

んと、今宮住吉街道を通りしに見牽しき五歳位の兒童が八百屋の店に見張の居らざるを見て鶏卵三個を盗み馳せ去るをみたり余は勃に其の後をつけて行くに十六七の青年に其の卵を渡し、其の青年より盗み賃として一個を貰ひ居れり、余は尙彼等の後をつれて行くに遂に木賃宿橋屋に入りたり、余も亦橋屋に入り種々聞合たるに彼の卵を盗みたる兒童は父もなく母のみにて其



みのり子供園設立者と幼兒

青年が誘ひ出し盗ませたる事を知りたり。

此の釜ヶ崎は大阪市のどん底生活者の集まれる處實に不潔極まる處なり余は此等の不健全な兒童の狀態を見るに忍びず、たとひ一人でも此の惠まれざる兒童の同情者とならんものと遂にみのり子供園」を設立する事となれり。

五月の初現在の所に（釜ヶ崎を西へ四町余）土地三百六十五

坪を求め、更に府官舎二棟の拂下げを得移轉して今日に及べり。

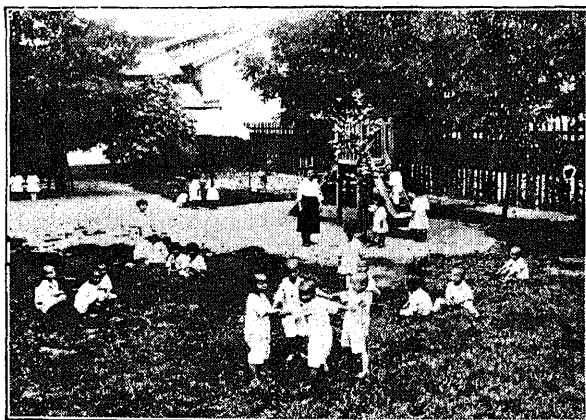
以來現今に至るまで終了生を出せること六十四名收容者は貧困なる人の兒童三十名を收容する事とせり。

保育料は一切無料にて、夏冬洋服をも與へ居れり。

入園願書は今官警察署に差出させ、小寺正吉と云ふ警部が家庭をよく調べた上入園を許す事とせり。

現今の保姆は久松稔子にて元道仁小學の訓導たりし人なり。

他に醫師今泉正吉―此人は余が尋常四學年の時より養育せし青年にて、京都帝大出の者にて目下市民病院の小兒科に勤務せり。



みりの園は設備は不完全なれど三百坪の庭園に鬱蒼たる「アカシヤ」の下にて園兒は皆喜び遊び暮

みりの園は設備は不完全なれど三百坪の庭園に鬱蒼たる「アカシヤ」の下にて園兒は皆喜び遊び暮

せり、余個人の資金にて經營せる事故目下は園舎を建たり他の設備を完ふする能はざれど、財界がよく成らば追々完成する筈なり。

おことはり

甚だ失禮でありますが設立者の御姓名を失念いたしましたのであります。お序のとき御知らせ下さることを願上げます。

(堀生)